



参考仮訳 ver1

地方自治体及び自治体当局 (LGMA) LGMA COP30 共同ポジション

LGMAは、UNFCCC（国連気候変動枠組条約）プロセスにおいて、町、市、郡、準州、州、地域、地方政府など（以下「地方自治体」という。）の声を代表しています。

詳細については、cities-and-regions.orgを御覧ください。

執筆委員

Yunus Arian | ICLEI - Local Governments for Sustainability, LGMA Focal Point
Eva Baños de Guisasola | Council of European Municipalities and Regions (CEMR)
Agathe Cavicchioli | Global Covenant of Mayors for Climate & Energy (GCoM)
Heloise Chicou | Regions4
Amelia Dearman | Global Covenant of Mayors for Climate & Energy (GCoM)
Ariel Dekovic | ICLEI - Local Governments for Sustainability
Carlos de Freitas | Global Fund for Cities Development (FMDV)

Teresa Garcia Perez | European Committee of the Regions (CoR)
Urszula Kasperek | C40 Cities
Nehmat Kaur | Under2 Coalition
Casimir Legrand | C40 Cities
Asif Nawaz Shah | Global Covenant of Mayors for Climate & Energy (GCoM)
Champa Patel | Under2 Coalition
Sol Rowe Welch | C40 Cities
Pablo Sebastian Mariani | United Cities and Local Governments (UCLG)
Toby Walker | Under2 Coalition



地方自治体は、気候に関するマルチラテラリズム（多国間主義）を維持し、世界を「交渉」から「実施」へと移行させるために不可欠です。

LGMAとして、私たちはCOP30の成功とは、より野心的で包摂的な気候行動の推進において、地方自治体が果たす重要な役割を公式に認め、その力を活かし、世界的な取り組みの中心に据えることだと考えます。こうしたアプローチによって、COP30議長国が提唱する「ムチロン（Mutirão）」の精神——交渉から実施へ、意志から成果へと移すための集団的な努力——を体現し、パリ協定の真の可能性を引き出すことができます。

このビジョンを実現し、この重大な局面で必要とされる行動と協力を後押しするために、パリ協定の締約国、現・次期のUNFCCC-COP議長国、CHAMP支持国、UNFCCC事務局、その他のオブザーバー・グループ、そして持続可能な開発のための2030アジェンダの署名193か国といった主要な関係者が、COP30の成功に貢献できる取り組みは以下のとおりです。：

1. 2028年のグローバル・ストックテイクに向けて、地方自治体と協力しながら、多層的な気候行動を推進することをUNFCCCの正式な作業計画の策定に取り組むとともに、これまでの関連するUNFCCCの成果やNDCs3.0における進展を踏まえ、また2027年に公表が見込まれるIPCC都市に関する特別報告書の成果を考慮しつつ、ニュー・アーバン・アジェンダと気候行動との相乗効果を加速・強化すること。
2. 地域や広域の優先事項を反映した適応指標を具体的に運用し、その進捗を適応に関する世界全体の目標に反映させること。
3. 公正な移行に関する政策やプログラムを実施するにあたり、地方自治体を、各国政府にとって欠かすことのできないパートナーとして正式に認めること。
4. 気候資金の地域化（ローカリゼーション）を、進化するグローバルな金融構造の基本的柱として位置づけ、資金が地方自治体に適切に配分されるようにすること。
5. グローバルな気候・持続可能性の取り組みにおいて、多層的協力のための新しい時代を切り拓くこと。COP30の交渉では、来るUN80改革を含め、新たな包括的な気候および持続可能性ガバナンス体制の設計における地方自治体の関与をさらに深め続けること。

地方自治体は、気候危機の最前線に立ち、気候変動の影響が発生した際の最初の対応者です。彼らは世界のGDPの50%以上を生み出し、気候変動対策を推進するための規制、計画、課税を担っています。実際、[カーボン・プライシング制度のうち44%](#)は州および地域レベルで実施されています。世界中の都市と地域は積極的に気候変動対策を推進しており、中には自国の政府よりも速いペースで排出量を削減し、レジリエンスを構築しているところもあります。それにもかかわらず、気候資金のうち地方に届くのは現状で10%未満です。ブラジルのベレンで開催されるCOP30は、この状況を変える機会です。

私たちは、最近の多国間気候協力の節目を歓迎します。すなわち、化石燃料からの移行に向けた歴史的なCOP28合意、COP27のロス&ダメージ基金、そしてCOP29での2035年までに年1.3兆ドルを動員するという誓約です。これらの成果は、野心的かつ包摂的な行動が実際の進展をもたらし得ることを証明しています。

今、COP30はこの勢いをさらに活かさなければなりません。COP30グローバル気候行動アジェンダは、議長国および国連気候変動ハイレベル・チャンピオンによって推進され、世界を交渉から実施へと移すことができます。

世界中で、都市や地域はすでに可能性を示しています。気候行動のための高い野心を持つ多層的パートナーシップ連合（CHAMP）を支持する国々では、都市の気候コミットメントにより、現行のNDCとパリ協定に沿った軌道との間のギャップの37%を埋めることが可能です。特にグローバルサウスのサブナショナル政府は、重要な適応および緩和策を推進し、国家が決定した貢献（NDCs）や国家適応計画（NAPs）を強化するとともに、地域の優先課題を世界的目標に反映させています。私たちが今必要としているのは、この進展をさらに促進し加速させることができる国際的プロセスです。

COP30に先立ち、リオデジャネイロで開催されるローカル・リーダーズ・フォーラムは、これらの解決策をグローバル・ムチロン（Global Mutirão）の一環として取り上げ、地域主導の気候行動とCOP交渉をつなぎます。CHAMPのような取り組みは、多層的ガバナンスの新しい時代を促進し、都市および地域のリーダーシップを国家戦略や国際的枠組みに組み込むことができます。

サブナショナルアクターを正式に認め、気候資金の地域分配を拡大し、COPの中に地方自治体のための恒久的なフォーラムを設けることで、ベレンの意思決定者たちは、世界中の人々が求める包摂的で変革的な気候行動を実現する機会をつかむことができます。

この声明には、さらに実行可能な提言、重要な文脈、および交渉者向けの提案文が添付されています。



賛同する地方自治体ネットワーク

[LGMA COP30共同声明は、2025年10月25日まで、地方およびその他のサブナショナル政府のネットワークによる賛同を受け付けています。]

ANNEX 1: UNFCCCにおけるマルチレベル・アクションと都市化

COPにおいてLGMAが主導するフォーラム、サミット、キャンペーン、イニシアチブ、パビリオンを補完するもの。

1. Multilevel	2023 - COP28 Global Stocktake – Decision – para.161 – urging for multilevel action
	2021 - COP26 Glasgow Climate Pact – Decision – preamble – need for multilevel action
	2015 - COP21 Paris Agreement – Decision – preamble – recognizing importance of engaging all levels of governments
	2014 - SB40 Forum on experiences and best practices of cities and subnational authorities in relation to adaptation and mitigation
	2010 - COP16 Cancun Agreements – Decision – governmental stakeholders
2. Mitigation	2024 - COP29 - Mitigation Work Programme on cities, buildings and urban systems
	2014 - SB40 and ADP Technical Expert Meetings on urban environment
	2013 - ADP2.3 Workshop on pre-2020 ambition: urbanization and the role of governments in facilitating climate action in cities
3. Adaptation	2023 - COP28 - Global Stocktake – Decision – para.63
	2015 - COP21 Paris Agreement – Decision – Art.7.2
4. Loss and Damage	2023 – COP28 – Decision - Direct subnational access para.20e, 44, 48
5. Finance	2019 – COP25 Standing Committee of Finance – Report
6. COP Presidency - Action Agenda	2025 - COP 30 Axis4 - Building Resilience for Cities, Infrastructure and Water
	2024 - COP29 - MAP - 3rd Urban and Climate Ministerial
	2023 - COP28 - CHAMP - 2nd Urban and Climate Ministerial, Urban Nature
	2022 - COP27 – SURGe, Sharm El Sheikh Adaptation Agenda, 1st Urban Climate Ministerial
	2021 - COP26 - Race-to-Zero, Race-to-Resilience
	2019 - COP25 - Climate Ambition coalition
	2018 - COP24 - Multilevel Action Dialogue
	2017 - COP23 - Talanoa Dialogue
	2016 - COP22 - Marrakech Partnership for Global Climate Action Human Settlements Thematic Action Pathway
	2014 - COP20 - Lima-Paris Action Agenda and NAZCA
	2013 - COP19 - Cities Day
	2010 - COP16 - Mayors and Parliamentarians Dialogue



Highlights in reverse chronological order:

- **2024 Mitigation Work Programme** focused on cities, buildings and urban systems
- **2023 UAE Consensus** para.161 urged Parties for multilevel action and para.63 on resilient cities
- **2021 Glasgow Climate Pact** underlined urgent need for multilevel collaboration
- **2019 Standing Committee on Finance** focused on sustainable cities
- **2015 Paris Agreement** preamble recognized the importance of engagement of all levels of governments and Art7.2 local and subnational dimensions of adaptation
- **2010-2015;** workshops and forums paving the way for the Paris Agreement
- **2007-2009;** Bali Roadmap for a post2012 climate regime, mirrored by Local Government Climate Roadmap for *recognition, engagement and empowerment* of local and other subnational governments
- **1995-2006;** little progress due to lack of any substantial provisions in the UNFCCC and Kyoto Protocol.